



ひびき



CONTENTS

8	7	6	5	4	3	2	1
2025年度出荷実績	リサイクル委員会 異業種工場見学会レポート	ドラム缶工業会の安全活動	AOSD役員会報告	第12回AOSD国際会議 テーマ決定・ホームページ開設	安全で適切な取り扱いの普及に向けた取り組み(動画・パンフレット)	鋼製ドラムの資源循環を紹介するPR動画を公開	独占禁止法遵守研修会
							新理事長挨拶
							2026年度役員・委員長の紹介
							新社長登場 ダイカン(株) 清水嘉浩

93

第28代理事長 就任挨拶

理事長就任にあたって

ドラム缶工業会 理事長
JFE コンテナ株式会社 代表取締役社長
関谷 慶宣



このたびの令和8年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

去る5月21日の総会において、近松前理事長の後任として、第28代理事長に就任いたしました。会員各社の皆様のお力添えをいただきながら、その責務を果たしてまいりたいと存じます。

国内外の情勢と業界を取り巻く環境

2025年度は、物価上昇や海外経済の不透明感が続く中、当工業会の主要需要先である石油化学業界においても、中国を中心とした設備増強や国内設備の再編が進み、厳しい事業環境が続きました。2025年度の200Lドラム缶出荷本数は1,226万本(前年度比97.8%)、ペール缶は1,666万本(同101.2%)となりました。

一方、電子材料やライフサイエンス分野などでは堅調な需要も見られます。先行きは依然として不透明ではありますが、こうした環境変化を的確に捉え、業界として着実に対応していくことが重要であると考えております。

工業会としての重点的な取り組み

第一に、安全とコンプライアンスの徹底です。

安全とコンプライアンスは当工業会活動の基盤であり、何よりも優先されるべきものです。会員各社の安全活動や労働災害事例の共有を通じた類似災害の再発防止、コンプライアンスに関する研修や法令・制度の情報提供を通じ、社会から信頼される業界であり続けるよう努めます。

第二に、鋼製ドラムの環境価値の発信です。

鋼製ドラムは、高いリユース性と実質100%のリサイクル性を有する循環型産業容器です。本年3月には、日本ドラム缶更生協同組合との共同事業として、鋼製ドラムの資源循環を紹介するPR動画を公開いたしました。今後もこうした取り組みを通じて、その環境価値や優位性を積極的に発信し、鋼製ドラムへの理解促進とさらなる普及を図ってまいります。

第三に、適正なコスト上昇への対応と持続可能な物流体制の構築です。

原材料価格やエネルギー価格、労務費等の上昇への対応が重要な課題であり、取適法等の制度趣旨を踏まえつつ、適正な価格協議への理解促進に努めます。また、物流を取り巻く環境も依然として厳しく、附帯作業の削減や荷待ち・荷役時間の短縮など、物流課題への対応が求められております。今後も主要需要業界との対話や情報交換を進め、持続可能な物流体制の構築に取り組んでまいります。

第四に、人材確保への対応です。

製造業全体で人材不足が深刻化する中、会員各社では、作業環境の改善や生産性の向上など、人材が働きやすい職場づくりに取り組んでおります。その上で、本年、特定技能・育成就労制度の対象分野にドラム缶・ペール缶製造業が追加されました。育成就労制度は2027年4月から開始される予定です。当工業会としても会員各社への情報提供や制度活用を支援し、業界の持続的な発展を支える人材確保に取り組んでまいります。

第五に、国際活動の推進です。

当工業会は、ICDMおよびAOSDを通じて各国との情報交換や技術交流を継続しております。2027年11月には広島で第12回AOSD国際会議を開催いたします。本会議は、各国の技術や環境対応に関する知見を共有し、鋼製ドラム産業のさらなる発展につなげる貴重な機会です。ホスト国として、参加者相互の交流を深め、有意義な会議となるよう準備を進めてまいります。

会員各社との連携を一層深め、業界のさらなる発展に向けて取り組んでまいります。

理事長就任にあたり、皆様方のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2026年度 役員・委員長の紹介

2026年6月24日現在

■ 理事長		関 谷 慶 宣	JFEコンテナ (株)	代表取締役社長
■ 副理事長	● 200L缶関係 ● 中小型缶関係 ● ペール缶関係	近 松 幸士郎 山 本 和 男 橋 本 克 典	日鉄ドラム (株) (株) 山本工作所 (株) ジャパンペール	代表取締役社長 代表取締役社長 代表取締役社長
■ 常任理事	■ 兼監事 ■ 兼監事	今 井 久 代 前 田 洋 子 内 藤 誠 垣 内 成 世 清 水 嘉 浩 鈴 木 康 友 長 尾 浩 志	(株) 東京ドラム罐製作所 (株) 前田製作所 斎藤ドラム罐工業 (株) 新邦工業 (株) ダイカン (株) 東邦シートフレーム (株) (株) 長尾製缶所	代表取締役社長 代表取締役社長 代表取締役社長 代表取締役社長 代表取締役社長 代表取締役社長 代表取締役社長
■ 委員長	● 企画・統計委員会 ● 技術委員会 ● ペール委員会 ● 安全委員会	池 田 英 樹 山 下 達 也 加 藤 政 靖 小 川 賢 児	JFEコンテナ (株) 日鉄ドラム (株) (株) ジャパンペール ダイカン (株)	取締役 取締役常務執行役員 生産・技術本部長 技術企画室 室長 品質管理部長
■ 事務局長		廣 川 二 郎	ドラム缶工業会	専務理事

新 社 長 登 場

ダイカン株式会社 清水 嘉浩



本年6月に吉岡前社長の後任として就任いたしました清水嘉浩です。どうぞよろしくお願いいたします。

簡単に自己紹介をします。1964年生、大阪府大阪市出身、1984年大阪製罐所（現ダイカン）入社以来、製造部門、営業部門、品質管理部門などに携わってまいりました。

当社は創業108年を迎える、200Lドラム缶、中小型缶、ステンレス缶、ファイバードラム缶の製造・販売を手掛ける企業です。

経営理念である「容器事業を通じて、環境・社会への貢献と持続的な成長を目指す。」を実現することこそが、私たちの使命であると考えております。

私自身、これまでの経験を通じて最も大切だと感じているのは、従業員の安全です。安全に勝るものはないとの信念のもと、「ご安全に!」という言葉に込められた想いを大切にしながら、今後も安全活動の推進に全力で取り組んでまいります。

ドラム缶業界を取り巻く環境は、時代の変化とともに大きく変化しています。環境問題への対応、人材不足や物流課題への取り組みに加え、足元では中東情勢の緊迫化に伴う原材料供給への懸念など、さまざまな課題に直面しております。

今後もさまざまな環境変化が予想されますが、会員各社の皆様と共に、業界の発展に貢献できるよう尽力してまいります。

皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

独占禁止法遵守研修会を開催しました。

7月23日（木）、鉄鋼会館において、本年も日比谷総合法律事務所の多田敏明弁護士を講師に迎え、独占禁止法遵守研修会を開催しました。会場とリモートによるハイブリッド形式で実施し、約180名の皆様にご参加いただきました。

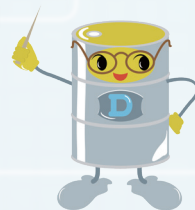
今回の研修では、まず取適法の最新の運用動向についてご講演いただきました。サプライチェーン全体での取引適正化に向けた支払い条件の厳格化や物流特殊指定（着荷主規制）、優越的地位濫用ガイドラインの改正など、最近の制度改正と実務上の留意点について、具体的な事例を交えながら分かりやすく解説いただきました。

続いて、知的財産・ノウハウ保護に関する優越的地位濫用ガイドラインや、競合他社との情報交換をはじめとする独占禁止法上の留意点についてご説明いただきました。

参加者には、企業間取引を取り巻く法規制への理解を深めるとともに、コンプライアンス遵守の重要性を改めて認識する有意義な研修となりました。



鋼製ドラムの資源循環を紹介する PR動画を公開



— 経済産業省「METI Journal ONLINE」にも掲載されました —

ドラム缶工業会と日本ドラム缶更生協同組合は、鋼製ドラムの優れたリユース性・リサイクル性を広く発信するため、PR動画「循環型社会へ貢献する鋼製ドラム — 高いリユース性とリサイクル性を活かした産業容器 —」を共同制作し、本年3月に公開しました。

本動画では、鋼製ドラムの製造から使用、回収、再生（リユース）、そして鉄スクラップとして新たな鉄鋼製品へ生まれ変わるまでの資源循環の仕組みを紹介しています。鋼製ドラムは、世界共通規格に基づく安全性・信頼性、鉄素材ならではの繰り返し使用・再資源化のしやすさ、さらに全国規模の回収・再生ネットワークを背景として、高い資源循環性を実現しており、約60%がリユースされ、使用後は実質100%リサイクルされています。

さらに、本動画には経済産業省製造産業局金属課長からのメッセージも収録されており、鋼製ドラムの環境性能や産業インフラとしての役割について理解を深めていただける内容となっています。

また、本年4月には、経済産業省の情報発信サイト「METI Journal ONLINE」の「60秒早わかり解説」において、鋼製ドラムのリユース・リサイクル性を紹介する記事が掲載されました。記事では、鋼製ドラムの高い資源循環性がコンパクトに紹介されるとともに、本PR動画へのリンクも掲載されています。

当工業会では、今後も鋼製ドラムの優れた環境性能や資源循環への貢献について、動画や広報媒体を通じて積極的に情報発信を進めてまいります。



PR動画「循環型社会へ貢献する鋼製ドラム」冒頭画面



鋼製ドラムは、リユースとリサイクルにより高い資源循環性を実現

PR動画はこちらの
2次元コードから ▶



METI Journal ONLINEは
こちらの2次元コードから ▶



——安全で適切な取り扱いの普及に向けた取り組み——

技術委員会

動画「鋼製ドラムの安全な取り扱い」を公開

ドラム缶工業会では、鋼製ドラムの安全な取り扱いに関する理解促進と事故防止を目的として、解説動画「鋼製ドラムの安全な取り扱い」を制作し、本年3月より公開しています。

近年、使用済みドラムの切断作業中の爆発事故など、取り扱いに起因する重大災害が発生していることを踏まえ、本動画では鋼製ドラムの構造や安全な取り扱いの基本、充填前後の保管方法、充填時の注意点、使用済みドラムの適切な処理方法、切断・加熱作業時の危険性などを分かりやすく解説しています。

制作にあたっては技術委員会が内容を検討し、現場で役立つ実践的な内容としました。本動画が、鋼製ドラムを取り扱う事業者をはじめ、関係する多くの皆様の安全意識向上と災害防止の一助となることを期待しています。

動画は工業会ホームページおよびYouTubeで公開しておりますので、ぜひご活用ください。

動画はこちらから ▶▶▶



ペール委員会

パンフレット「鋼製ペール取扱上の注意」を改訂

ドラム缶工業会ペール委員会では、「鋼製ペール (JIS Z 1620) 取扱上の注意」パンフレットを改訂し、本年3月に発行しました。

今回の改訂は、前回 (2020年) の発行から一定期間が経過したことを踏まえ実施したもので、内容の見直しに加え、構成を整理し、イラストや写真を充実させることで、より分かりやすい内容としました。

本パンフレットでは、鋼製ペールの種類や構造から、適切な容器選定、充填前後の保管方法、充填時や内容物取り出し時の注意事項、使用済みペールの廃棄・リサイクルまでを体系的に紹介しています。

本パンフレットを通じて、鋼製ペールの適切な取り扱いに関する理解が広まり、安全で適切な利用の促進につながることを期待しています。当工業会ホームページから閲覧・ダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

パンフレットはこちらから ▶▶▶



第12回AOSD国際会議 テーマ決定・ホームページを開設

ドラム缶工業会では、2027年11月8日(月)から10日(水)まで広島市のグランドプリンスホテル広島で開催する第12回AOSD国際会議に向け、実行準備委員会を中心に準備を進めています。

このたび、AOSD役員会において大会テーマが正式に決定しました。

大会テーマ

Innovation for Sustainable Manufacturing — The Evolving Role of Steel Drums —

(持続可能な鋼製ドラム製造に向けたイノベーション — 進化する鋼製ドラムの役割 —)



本テーマは、鋼製ドラム製造におけるイノベーションと、社会における鋼製ドラムの進化する役割を取り上げるものです。



このたびAOSD 2027ホームページを開設しました。ホームページでは、開催概要や大会テーマ、会場・日程などの基本情報を公開しており、今後、「参加登録」「プログラム」「宿泊案内」「ブース出展の募集」などの情報を順次掲載していく予定です。



本会議には、アジア・オセアニア地域をはじめ世界各国の鋼製ドラム関係者が集い、技術発表や各国業界の最新動向の紹介などを予定しています。

当工業会では、引き続き大会の準備を進めるとともに、参加登録やプログラムなど大会に関する最新情報を、AOSD 2027ホームページおよび当工業会ホームページで順次お知らせしてまいります。

会報「ひびき」では、節目ごとの準備状況をご紹介します。



開催概要



会期 2027年11月8日(月)～10日(水)



会場 グランドプリンスホテル広島
(広島市南区元宇品町23-1)

AOSD 2027ホームページはこちら

URL

<https://aosd2027.jp/>

2次元コードからもご覧になれます。



タイ

バンコク

AOSD役員会を開催しました (2026年4月 バンコク)

本年4月9日、AOSD (アジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会) の役員会がタイ・バンコクにて開催されました。日本からは近松理事長、松田企画・統計委員長、江原技術委員長および事務局長が出席し、中国、韓国、タイの代表者とともに、業界の最新動向や国際的な課題について意見交換を行いました。

会議では、昨年12月に開催されたICDM (国際鋼製ドラム製造者連合会) 役員会の報告を踏まえ、EU包装・包装廃棄物規則 (PPWR) やBPA規制、GHG Scope3、UN危険物輸送規則など、国際的な制度・規制への対応状況について情報共有を行いました。特にPPWRについては、EU向け輸出に使用される鋼製ドラムにも影響が及ぶ可能性があることから、AOSDとして引き続き動向を注視し、各国で情報共有を進めることを確認しました。

また、各国から2025年の生産・市場動向が報告され、日本、韓国、タイでは石油化学産業の低迷などを背景に需要が伸び悩む一方、中国からは、AI・自動化の導入や海外展開などの状況が報告されました。

さらに、2027年11月に広島で開催予定の「第12回AOSD国際会議」の準備状況を報告し、大会テーマ案「Innovation for Sustainable Manufacturing - The Evolving Role of Steel Drums -」について各国の承認を得ました。今後、国際会議ホームページの公開など、本格的な準備を進めていくことを説明しました。

役員会翌日の4月10日には、タイのSaeng Thai Metal Drum社の工場を視察しました。2015年に操業を開始した工場を見学し、操業状況やBPAフリー化への対応、暑熱対策などの説明を受けました。各国参加者との交流も深まり、今後の国際連携の一層の強化につながる有意義な機会となりました。

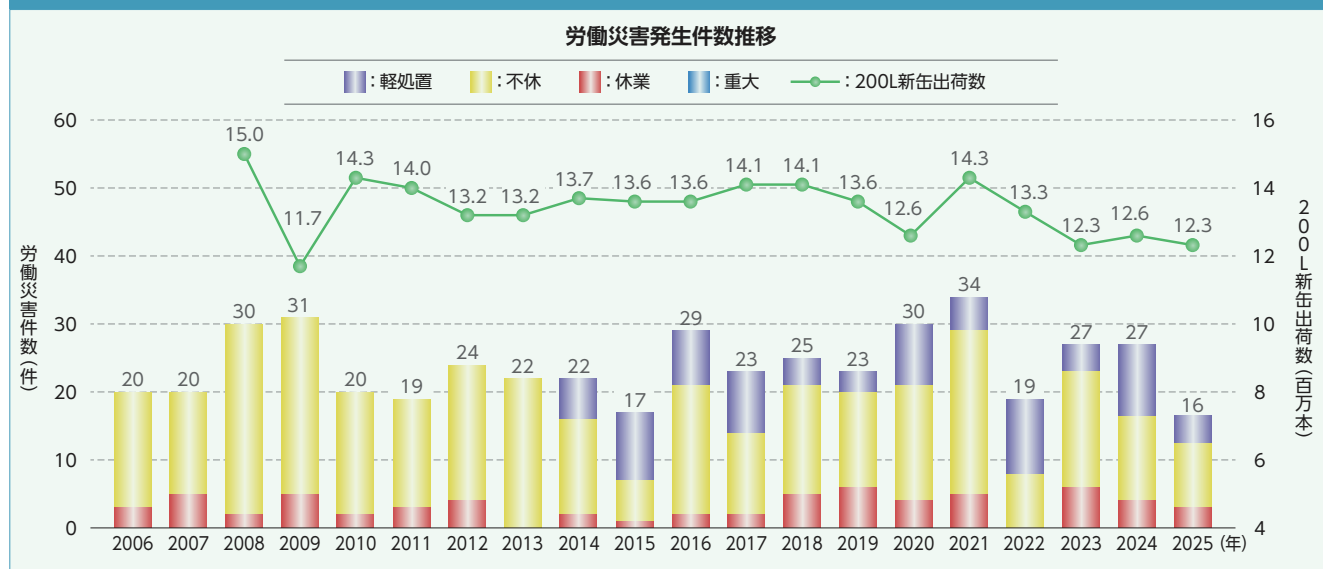


AOSD役員会ディナー会場での集合写真

ドラム缶工業会の安全活動

ドラム缶工業会では、2006年より会員各社の労働災害事例を共有し、類似災害の撲滅活動を推進しています。

2025年の安全成績および安全委員会の相互事例発表活動



グラフは、会員各社における労働災害の発生状況を示しています。2025年(暦年)の労働災害件数は16件となり、前年の27件から11件減少しました。このうち熱中症による災害は2件で、前年の10件から大幅に減少し、各社が重点的に取り組んできた熱中症対策の成果が表れた一年となりました。一方で、「挟まれ・巻き込まれ」や「切れ・こすれ」は引き続き主要な災害類型であり、設備稼働中の作業や安全ルールの徹底などが継続的な課題となっています。

ドラム缶工業会では、毎年7月に各社の安全衛生活動に関する相互事例発表会を開催しています。本年は7月10日、鉄鋼会館において対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催し、11社が安全活動の取り組み事例を発表しました。以下は、本年の相互事例発表会での各社の発表テーマです(発表順)。

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| 1) オープンバンド挿入装置の安全化 | JFEコンテナ |
| 2) 熱中症対策・労働災害防止活動 | ジャパンパール |
| 3) 職場の危険防止対策・熱中症対策 | 新邦工業 |
| 4) 安全リスクアセスメント実行と熱中症対策 | ダイカン |
| 5) 安全装置「シャッターガード」導入および熱中症対策 | 東京ドラム罐製作所 |
| 6) 安全活動の取り組みおよび熱中症対策 | 東邦シートフレーム |
| 7) 新人教育、直近の災害関連トピックおよび熱中症対策 | 長尾製缶所 |
| 8) 内装塗装機および搬送装置可動部清掃作業 | 日鉄ドラム |
| 9) 工場空調設備導入およびフォークリフト安全教育 | 前田製作所 |
| 10) 挟まれ・巻き込まれ防止対策 | 山本工作所 |
| 11) 熱中症対策の取り組み | 斎藤ドラム罐工業 |

本年の発表では、「挟まれ・巻き込まれ」災害防止に向けた設備改善や安全装置の導入、リスクアセスメント、安全教育、安全パトロールに加え、空調設備、空調服、水冷ベスト、アイスラリーなど各社の熱中症対策について、多くの実践事例が紹介されました。また、設備改善による災害防止対策やリスクアセスメントの進め方、安全教育の実施方法や各種熱中症対策の効果・運用方法などについて活発な情報交換が行われ、安全意識の向上と業界全体の安全レベル向上につながる有意義な内容となりました。

なお、2026年上期(1~6月)の労働災害は12件となり、熱中症災害は1件にとどまっています。今後も、会員各社の労働災害事例や安全活動の取り組み事例を積極的に共有し、類似災害の防止と業界全体の安全レベル向上に努めてまいります。



相互事例発表会の光景



パール委員会 異業種工場見学会レポート

株式会社長濱製作所 様 (京都市南区)

日 時：2026年6月12日(金) 午後2時～午後4時
見 学 所：株式会社長濱製作所(京都市南区)
見学参加者：パール委員会各社より計13名



立入社長(中央)との集合写真

パール委員会では、異業種の優れた工場運営や改善活動を学び、会員各社の生産性・品質向上を目的として、京都市南区の株式会社長濱製作所を訪問しました。

長濱製作所は、1948年創業の、半導体製造装置や医療機器向けを中心に、アルミなどの精密機械部品の切削加工を行うメーカーです。従業員数は29名で、多品種少量・短納期生産を強みとし、3S活動や生産管理の改善に取り組まれています。

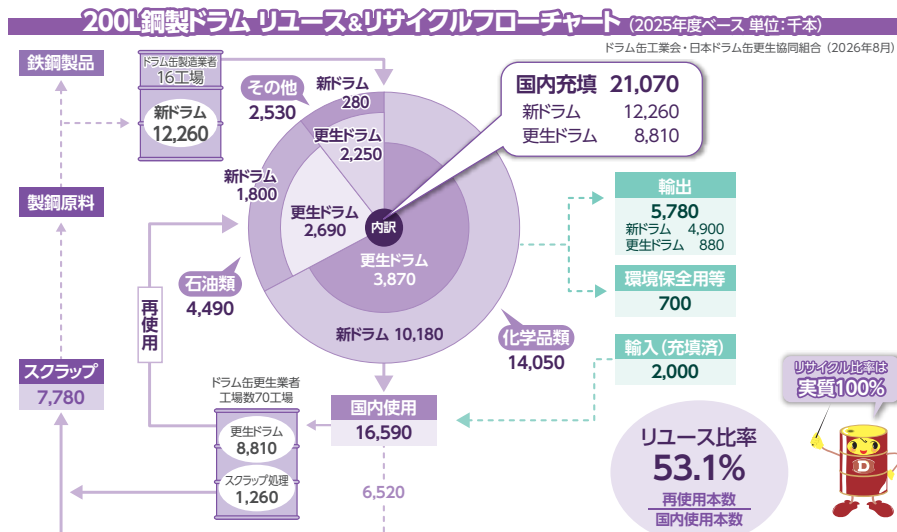
見学では、まず立入社長より会社概要や3S活動、生産管理システムについて説明をいただいた後、工場内を見学しました。同社では3Sを単なる整理整頓ではなく、「無駄を排除し、生産性を向上させるための経営活動」と位置付け、全従業員参加で改善活動を継続されています。毎月の改善活動や3Sパトロール、表彰制度など、改善を継続する仕組みが印象的でした。

工場内では、工具・治具の定位置管理や表示の徹底、工程進捗の見える化などが実践され、「探さない工場」を実現する工夫が随所に見られました。また、市販ソフトとExcelを組み合わせた独自の生産管理システムにより、工程や設備負荷、在庫などをリアルタイムで把握する仕組みが構築されていました。こうした取り組みは、長年継続してきた3S活動と相まって、品質と生産性向上を支える基盤となっていました。

質疑応答では、短納期対応や品質管理、人材育成などについて活発な意見交換が行われました。特に、「人の頑張りに頼るのではなく、仕組みによって品質と効率を維持する」という考え方や、改善活動を継続・定着させるための工夫は、パール缶製造においても参考となる点が多く、参加者にとって有意義な工場見学となりました。

鋼製ドラムは“リサイクルの優等生”です 資源としてのリサイクル比率は実質100%

鋼製ドラムは使用後、一部は更生缶メーカーに回収され、一部はユーザーから直接スクラップ処理業者に回収されています。ドラム缶はこのようなリユース(再使用)およびリサイクル(再利用)のシステムが確立しており、循環型リサイクルの優等生といえます。右の図は2025年度版200L鋼製ドラム リユース&リサイクルフローチャートです。ドラム缶のリユース比率は53.1%になりますが、環境保全用ドラム缶を除くと、資源としてのリサイクル比率は実質100%になります。



		当初(1997年)	2020年度ベース	2021年度ベース	2022年度ベース	2023年度ベース	2024年度ベース	2025年度ベース
工場数	新ドラム	18工場	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	17工場 (+1)	17工場 (変わらず)	16工場 (-1)	16工場 (変わらず)
製造本数	新ドラム	12,000千本	12,820千本 (▲5.5%)	14,260千本 (+11.2%)	12,820千本 (▲10.1%)	12,340千本 (▲3.7%)	12,540千本 (+1.6%)	12,260千本 (▲2.2%)
	更生ドラム	16,000千本	10,090千本 (▲5.9%)	10,480千本 (+3.9%)	9,840千本 (▲6.1%)	9,190千本 (▲6.7%)	9,050千本 (▲1.5%)	8,810千本 (▲2.7%)
国内充填		28,000千本	22,910千本 (▲5.6%)	24,740千本 (+8.0%)	22,660千本 (▲8.4%)	21,530千本 (▲5.0%)	21,590千本 (+0.3%)	21,070千本 (▲2.4%)
国内使用		26,000千本	17,070千本 (▲5.6%)	18,290千本 (+7.1%)	16,850千本 (▲7.9%)	15,970千本 (▲5.2%)	15,960千本 (▲0.1%)	16,590千本 (+3.9%)
リユース比率		61.5%	59.1% (▲0.2)	57.3% (▲1.8)	58.4% (+1.1)	57.5% (▲0.9)	56.7% (▲0.8)	53.1% (▲3.6)

(注) () 内は前年度比。ただし、リユース比率については比率(ポイント)の増減を示している。

ドラム缶・ペール缶の2025年度出荷実績

2025年度の200L缶の出荷は、前年度に比べ2.2%減、271千本減の12,264千本となりました。

用途別では、前年度に比べ化学向け(1.3%減、128千本減)、石油向け(5.6%減、106千本減)、塗料向け(3.8%減、24千本減)、その他向け(10.8%減、14千本減)が減少し、食料品向け(1.2%増、2千本増)が増加しました。

ペール缶は前年度比1.2%増の16,661千本、中小型缶は同17.4%減の302千本となりました。

2025年度缶種別・用途別出荷実績

缶 種	本数 (千本)	前年度比 (%)	2025年度実績 用途別((本数)(千本))				
			石油	化学	塗料	食料品	その他
200L缶	12,264	97.8	1,799 (94.4)	9,570 (98.7)	612 (96.2)	167 (101.2)	116 (89.2)
ペール缶	16,661	101.2	8,761 (101.8)	6,807 (99.8)	541 (113.8)	0	553 (97.7)
中小型缶	302	82.6	1	292	0	0	10
亜鉛鉄板缶	294	107.9	0	287	2	4	1
ステンレス缶	27	85.2	0	27	0	0	0
合計	29,548	—	10,560	16,983	1,154	171	680
前年度比(%)	—	—	96.2	98.6	96.5	100.9	91.0
構成比(%)	—	—	17.9	74.7	4.8	1.3	1.3

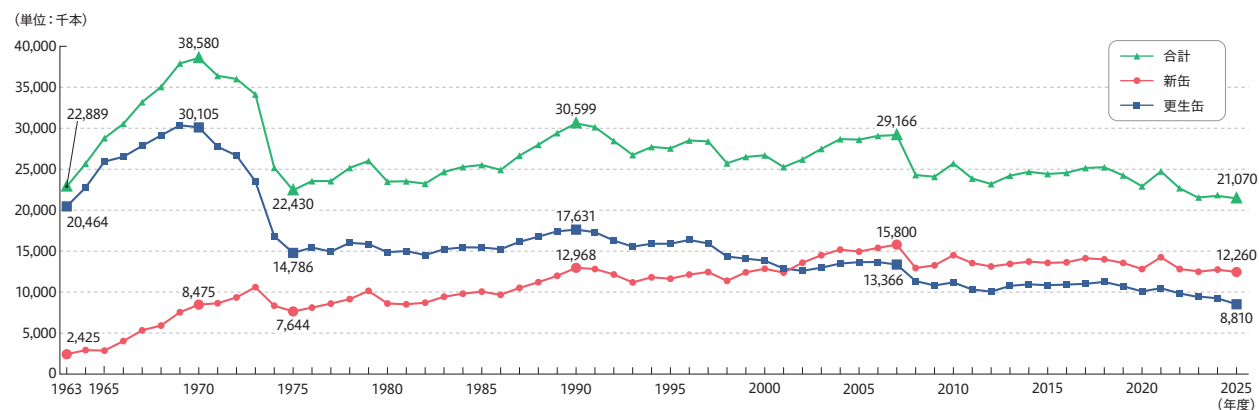
(注) 1. 用途別200L缶、ペール缶の下端()は前年度比。

2. 前年度比ならびに構成比は、トン数ベース。

3. 亜鉛鉄板缶、ステンレス缶は、200Lドラムおよび中小型缶を含む。

4. 総本数は、29,548,634本。表上数値は四捨五入による差異がある。

200Lドラム缶市場動向推移(1963年度～2025年度)



(注) 1. 千本以下四捨五入。 2. 1963年度の新缶生産本数は不明につき、生産トン数67,002トンを1965年暦年平均単重27.63kgで逆算して算出した。

・・・事務局だより・・・

7月28日に発生した令和8年熊本地震では、当工業会として、被災地からの要請を受け、発電機車の燃料用ドラム缶の供給に対応しました。令和6年能登半島地震に続く災害時の供給対応となります。今回は今後の余震等への備えとして活用される予定です。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

会員

《正会員》

- 斎藤ドラム罐工業(株)
- JFEコンテナ(株)
- (株) ジャパンペール
- 新邦工業(株)
- ダイカン(株)
- (株) 東京ドラム罐製作所
- 東邦シートフレーム(株)
- (株) 長尾製缶所
- 日鉄ドラム(株)
- (株) 前田製作所
- (株) 山本工作所

《準会員》

- 森島金属工業(株)

《賛助会員》

- エノモト工業(株)
- (株) 大和鉄工所
- 三喜プレス工業(株)
- (株) 城内製作所
- 東邦工板(株)
- (株) 水上工作所

ドラム缶工業会

〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
(鉄鋼会館6階)
TEL 03-3669-5141
FAX 03-3669-2969
e-mail: drum.pail@jsda.gr.jp

URL: <https://www.jsda.gr.jp/>

ひびきNo.93(2026年9月1日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 事務局長 廣川 二郎

無断での複製、転載はお断りいたします。詳細はお問い合わせください。
本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。